

科目名	履修学年	単位数	教科書	副教材等
論理国語	2	2	論理国語（数研出版）	論理国語 準拠ワーク（数研出版） プレミアムカラー 国語便覧（数研出版）

評価の観点	到達目標および評価の内容
a 知識・技能	・実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。
b 思考・判断・表現	・論理的、批判的に考える力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。
c 主体的に学習に取り組む態度	・言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。
評価の方法	
各定期考査、単元テスト、課題等の提出状況、学習活動への取組などの総合評価となります。	

年間指導計画											
前期						後期					
月	予定 時数	学習内容	評価の観点			月	予定 時数	学習内容	評価の観点		
			a	b	c				a	b	c
4	4	「弱いつながり」 東浩紀		○	○	10	8	近代と現代の視点 「〈近代〉の入口と出口の間」 吉見俊哉		○	○
5	8	逆説 「手の変幻」 清岡卓行 「胆力について」 内田樹		○	○	11	8	情報と社会 「白紙」 森田真生 「擬似群衆の時代」 港千尋		○	○
6	1	定期考査	○	○			1	定期考査	○	○	
7	8	具体と抽象 「『内的成長』 社会へ」 上田紀行 「『具体』 から『抽象』 へ」 森博嗣		○	○	12	8	言葉と思考 「日本語は論理的か」 野矢茂樹 「偶然とは何か」 竹内啓		○	○
8	8	言葉と創造 「添削の思想」 外山滋比古 「国境を超える言葉」 長田弘		○	○	1	4	文章の背景 「『安楽』への全体主義」 藤田省三		○	○
9	1	定期考査	○	○		2	1	定期考査			
	4	近代と現代の視点 「未来世代への責任」 岩井克人		○	○	3	6	「報告書を書く」		○	○
計 70											

※原則として一つの単元ですべての観点について評価するが、特に重点的に評価を行う観点について○をつけている。

履修上および学習上の留意事項

- ・教員の指示に応じて教材、タブレット等を忘れずに持ってくること。
- ・国語はあらゆる学習の基礎となることに十分留意し、日々の授業に集中して取り組むこと。
- ・生涯にわたって使う国語の運用能力の向上を目指すこと。
- ・授業に際しては予習・復習を常とし、けっして受動的な態度で臨まないこと。
- ・文章を読む活動を通して国語でものを考えるクセをつけること。